

R10-xxx ボールタイプのオールロック台座の整備

How to maintenance the Ball type oarlock mount of YAMAHA

1 ボールタイプのオールロック台座

ヤマハ艇のスカル、オーシャンスカルを中心に、ボールタイプのオールロック台座が使用されていた。このタイプのメンテナンスについて解説する。このタイプは、ネジ1本でスパンと前傾・外傾が調整できる斬新な設計であるが、その反面、緩みやすい(締めつけにくい=ボルトが曲がる)、グリップボールが腐食しやすいという問題があった。

原因は、グリップボールとそれを包む上下のパウ(弓形のホルダー)のサイズ(R)の最適化が充分でなく、しめつけていくにつれて、ボルト自身の「曲がり」の抵抗が大きくなる点にある。いくつかの改良があって最終バージョン(おそらく第3世代)では、パウ(ボールを受ける弓形のホルダー部分。上がパウアップパー、下がパウ・ロフという。パーツリストより引用)自身にネジを切っていたのをやめて、真鍮のナットを採用していた。しかし本質的な解決には至っていなかったように思われる。



上の写真は第2～3世代のものである。第1世代は、リガーのセンターステイに対して直上部にシャフトがあり、また上下のパウも軽合金であった。

写真の世代では、オフセットとなり、パウがステンレス製に変更された。右は第2世代で、パウ・ロフにネジが切ってある。左は第3世代のものでボルトと真鍮ナットで挟むタイプ。なお、左はセンターステイのパイプ内面に補強が見られる。おそらく、過度の締め付けで、パイプの変形や腐食の事例がみられたのだと思う。

2 詳細

このタイプの台座も、少しの工夫と丹念な手入れを心がければ、このオールロック台座も結構快適に使用することができる。写真は分解したところだが、パウ内面(凹面)の横断面方向のRはグリップボール(中子)のRより小さく、2本の平行線を中心に腐食が進んでいる。Rに差を持たせるのは悪くないが、その「程度」が問題だろう。



オーシャンスカルなどに用いられているボールタイプのオールロック台座は、ボールとパウ(ホルダー)の間にビニル側を挟むことで、固定や腐食防止に役立つ。

下の写真は、完全に分解したところである。第3世代のもので、ボルトが曲がってしまい、十分な締め付けができない状況である。



右のボルトは曲がっている。

3 整備のポイント

整備のポイントは、まず、パウアップパーおよびパウロアの内面(凹面)とグリップボールの隙間に、約1mmの厚さの塩化ビニルシート(古いオールのビニル皮が最適)を挟むようにすることである。

このようにすれば、ボルトが適切な位置で最も強く締めつけることができる。締め付けに過度に大きな力を要するとか、それでも十分に固定できないといった問題は解消できる。

またグリップボールも、異種金属(軽合金とステンレス)の直接の接触がなくなることや力が面的に分散できることもあって、傷つきや腐食(電食)を最小限に押さえることができる。



屋間にはさみ馴染んだ状態のビニル皮

現在では、ビニル皮そのものが艇庫にも転がっていないかもしれないが、軟質の約1mm厚さの塩ビシートであれば何でも代用できるだろう。